

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500769		
法人名	社会福祉法人フェニックス		
事業所名	グループホーム サニーテラス 1階		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9-204		
自己評価作成日	平成26年12月29日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;i_gyosyoCd=2170500769-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;i_gyosyoCd=2170500769-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成27年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日当たりが良好で、テラスへ気軽に出入られる環境にあり開放感がある。敷地内の芝生や、建物内の交流スペースは、託児や学童でお預かりしている子供たちの遊び場所となっており、子供たちの声が聞こえ活気がある。子供たちと交流する機会も多く、笑顔にあふれている。  
昔の記憶や残された感情を大切に、季節ごとに梅干しづくりやしそジュースづくり、らっきょう漬け、干し柿づくりなどを行っている。また、テラス前の畑を利用し、野菜を利用者と共に作り収穫し、また季節ごとにプランターで花を植え替え季節を感じ、作る楽しみ・食べる楽しみを共有している。  
お互いを気遣い合い、笑顔の絶えない家族のような関係づくりを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白壁の南欧風の明るい新築されたばかりの建物には、子育て支援のための交流スペースも併設されている。そこでは日常的に子供たちの遊ぶ姿を見たり、声を聞くことができる。環境が大きく変わったことに対する利用者のとまどいは、職員の細やかな配慮により1ヶ月ほどで解消し、今は見られないとのことである。庇の長いテラスは、併設施設(託児所シヨコラ、グループホームひだまり、喫茶店等)への外出を容易にし、バリアフリーになったことでの運動量の不足を補っている。「お昼御飯ですよ」「もうすこしあとにして」「わかりました。すこしあとにしましょうね。」とか「今日のおすまし、おいしいね」「そう、ありがとう。白菜が少なかったで玉ねぎも入れたの。」等自然で温かみのある会話が聞こえてきたり、また利用者「ここで漬けたものやに、おいしいよ。」と大根の酢漬をすすめていただく等から家族的な雰囲気を感じられた。食後は進んで他の人の食器をかたづけたり、お盆を拭いたりしている利用者の様子に主体的かつ協調的な関係が見て取れた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「Yes, we can! なんでも言ってください。私たちも一緒にがんばります」のフェニックスグループの理念が名札に入っており、いつでも見ることができる。職員は常にその思いを持ち入居者のケアにあたっている。	事業所の理念、基本方針を明確に記した小冊子とも言える、名刺サイズのカードが作成され、それを職員が常に携帯し、さらにミーティングで読み合わせを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃、地域運営推進会議への参加、隣接施設のプラザ&メゾンやGHひだまりでの行事への参加、託児所ショコラの子どもの交流、秋祭り等での地域の子どもやボランティアの方との交流などができている。	事業所の敷地が、災害における地域の第一次避難場所になっていることもあり、事業所の清掃に地域の方々が参加して下さったり、また秋祭りの模擬店に地域の民生委員に参加していただいている等地域との繋がりができている。	文化的な活動にはボランティアの協力を得ているが、地域との繋がりをさらに深めるため、日常生活に関わるボランティアの活用(レクリエーション、施設の清掃、外出の付添等)が期待される。利用者にとってボランティアと行動を共にすることは良い刺激になると思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を利用し、地域の方々に認知症の理解・対応を利用者の生活状況を通じて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月に1回外部の方々や事業所の取組内容や具体的な改善や課題について報告し、意見を頂きサービスの向上につなげている。また地域の方と避難訓練を実施し、防災についての話し合いができている。	会議には市の担当者や地域の代表者及び地域の方が自主的に参加されている。会議の年間計画を予め伝える事で多くの方の参加を得ている。家族にも予定しやすいように配慮すると同時に行事も一緒に行うことで出席を促す工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議を通じて地域との関わりや入居者の状況、危機管理、ほつと報告、ヒヤリハット報告など細かく報告し意見を頂いている。	担当者から事故例の紹介をしてもらったり、家族との関係を円滑にするための取り組みについて報告したりする等連携を密にしている。またひとりで外出されてしまう方の対応の仕方について助言をもらったりもしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中の施錠は基本的に行っていないが、入居者の状況によっては安全面を重視し一定時間施錠をする場合もある。	身体拘束に関する具体的な行為についてを全職員が理解を深めるべく研修を行っている。利用者の安全を確保しつつ、身体拘束をしないケアについて実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳について理解を深め、周知できるよう常にカンファレンスで知識を得て防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している入居者もあり、法人の勉強会などで知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明させて頂き、安心して生活して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置している。様式を変更し記入しやすいよう配慮している。また、運営推進会議へのご家族の参加により、意見・要望を出して頂く機会を設けて運営に反映させている。	記入しやすい用紙とペンを添えて色鮮やかな意見箱が設置されている。「苦情は宝」という考え方や家族の意見を大切にしようという姿勢がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週月曜日に法人の運営会議が開催され、理事長をはじめ各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案を話し合い、運営に反映させている。また近隣部署での会議も不定期に行われ情報の共有に務めている。	職員たちの話し合いの場である若葉会にはオーナーが参加することもあり、現場の声が直接、代表者に届く仕組みがある。毎週の会議や年2回の人事考課での面談において意見表明の機会があり、現場の職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や具体的な実績・勤務状況などを把握し、個別に話ししながら、職員各自が向上心を持ち働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や各種委員会に参加しスキルアップを図っている。新人スタッフに対しては勉強会を開催し、技術や知識の習得に勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や合同カンファレンスの実施、グループホーム協議会への加盟、研修会への参加等により質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを収集し、それをもとに、要望等に耳を傾け、早い段階で環境に馴染み、安心できる空間と、お互いの信頼関係を築くことができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報を元に、要望等に耳を傾け、また面会時なども、何でも話して頂けるよう日頃から関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	穏やかに過ごして頂けるようスタッフの認知症に関する理解や知識を深め、「その時」に合ったケアの仕方や、安心感を持って頂けるコミュニケーションを密にとり対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における家事作業など一緒に行い、生活の主体となれるよう一緒に過ごす時間を多く持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のこだわり・苦しみ・喜びを受け止め、本人の生活と共に支援していくようにしている。また面会時や電話にて報告・相談に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の法事・墓参りなどの外出、馴染みのある場所への外出を積極的に支援している。	利用者が在宅でどのように過ごされていたかを把握し、馴染みの場所や人との関係が継続できるよう配慮している。家族には職員ではなかなか把握できない利用者の昔の事柄についてお聞きする等、共に支援者となってもらえるよう促している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アセスメントや関わりの中から得られた生活歴などの情報を共有し、その方に合わせた話しかけ・対応に配慮しつつ、馴染みの関係づくりや入居者間の関わりでの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援ができる関係づくりを心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに基づき生活歴を把握した上で、家族・入居者と日々のコミュニケーションを深め、希望・意向を聞き出せるよう努力している。	利用者と職員の会話が穏やかに、かつ活発に行われていて、利用者が希望や意見を表明しやすい雰囲気があるように感じ取れた。ホット報告を活用し、利用者の意向、希望の把握に努めている。バックグラウンドアセスメントシートに記入してもらい、昔のことや思いを引き出し把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートや、家族からの聞き取りによりこれまでの暮らしを把握し、自分らしく暮らしていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる力、わかる力を暮らしの中で発見し、日々の業務の中で、カンファレンス、ほっと報告、トリガーシートなどで情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期カンファレンスにて情報を共有している。家族の希望も聞き、本人のできる事を重視し、委員会や会議での専門職(PT・OT・Ns)からのアドバイスも取り入れ作成している。	カンファレンス記録には医師、作業療法士、言語聴覚士、看護師等各職種の意見が記入されている。利用者の心身機能を維持するため、例えば、ただ「見守る」というのではなく、何を、どのように見守るのかというように具体的にどのような援助が必要であるか細かく検討されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	トリガーシートを活用し、定期カンファレンスにて情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、外出支援を行っている。また母体法人の経営する施設・喫茶などが周囲に隣接している為、ランチやコーヒーなどを楽しむことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設・託児所との交流などを通じて楽しむことができている。また自治会の方々に見学をして頂き様子の把握をして頂くと共に、消防訓練の実施により安全に暮らせるよう協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の医師の往診、訪問看護もあり、相談・報告をしている。また24時間連携を取っており、いつでも連絡ができる体制にある。母体が医療機関であるため、往診時以外でも随時相談をすることができる。	入居前のかかりつけ医を利用している方もあり、家族や本人の意向が大切にされている。24時間の医療支援体制があり、本人、家族の安心感につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師、訪問看護師に報告・相談し迅速な対応ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は本人のストレスや負担を軽減する為家族と相談し、医師・看護師と連携を図り早期退院に向け取り組む体制ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や週末期における対応について、本人や家族の希望を十分に聞き取り、最善のケアができるようにしている。対応すべき時期がきた場合には、家族・医師・看護師・職員と話し合いの場を設け、支援体制を整える仕組みがある。	食事が摂れなくなった時を第一ステージ、医師が看取りの段階だと判断した時を第二ステージとし、それぞれの段階で家族と十分な話し合いを行い、ホームでできること、できないことを伝え、支援に臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的なカンファレンスでリスクマネジメントの事例をもとに知識や技術の習得をし、再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・災害時、また昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難場所として最短距離・最短時間で避難できる駐車場を利用。近隣施設職員も協力し訓練を実施している。	避難訓練では隣接施設との協力体制や、地域の方の協力の仕方の確認も行われている。緊急連絡網が十分に機能しない等の課題を見つけ、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを損ねないさりげない言葉かけや対応を心掛けている。難聴の方にはジェスチャーを交えながらコミュニケーションを図っている。	一人ひとりの個性を把握し、その人に合った言葉かけ、支援のあり方を心がけている。職員間の連携が密であり、些細な利用者の感情の変化を話し合いを通して共有できている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方でも、自己決定できるよう選択支を提示したり、表情を観察するなどし希望に沿えるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの意思を尊重し、できる限り支援できるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生き生きと生活できるよう、行事などでも化粧をするなど、できるだけ本人の想いをかなえるようにしている。髪のカットは法人内の美容室を利用したり、家族がカットされる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は法人内施設で調理したものを、ご飯・汁物はホームで準備し提供している。汁物作り・盛り付けは入居者と共に行っている。月1回自由メニューの日は食べたいものを聞き、入居者と一緒に作る喜びを感じている。	「どう、今日のおすまし、辛くない？」「からくないよ。おいしいわ、おかわりしてもいい？」等、会話しながら食事の支援が行われている。利用者の好み、状況に合わせて調理が行われ、後片付けに自主的に参加している利用者が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては管理栄養士にサポートしてもらい偏りのないようにしている。食事量は全員チェックし、水分量は必要に応じてチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には支援している。できるだけ自分で行えるようその都度声掛けをして行って頂いたり、くまた水・土曜日の週2回は義歯洗浄剤により洗浄して清潔に保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が維持できるよう、支援している。必要に応じ随時話し合い対応している。	現在、全員の方がほぼ自立を維持している。それとなく様子を見たり、時にさりげない手伝いをする等、程良い支援を心がけている。排泄に関して能力が維持できるよう排泄に関する情報(排泄動作が自力で出来るようリハビリの材質の検討、随時の話し合い等)を細かく共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操など体を動かす機会を多くしている。水分摂取量を増やしたり、ヨーグルトや牛乳、繊維質の多いものを摂取して頂いたり、トイレ時に腹部マッサージを行うなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定を行い、表情・体調の確認をし安全に入っている。入浴剤の使用や、菖蒲湯など季節に合わせた工夫をし入浴を楽しめるよう心掛けている。	入浴を拒む理由を明らかにし、入浴中に利用者の好みの曲を聴いていただけるよう準備したり、あらかじめ脱衣場を温かくしておく等入浴を楽しんでいただけるよう工夫をしている。利用者の入浴方法の希望を把握できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を工夫し夜間良眠できるようにしている。眠れない時は話を聴いたり、飲み物を提供したり、一緒に過ごし穏やかに眠りつくことが出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬の目的・副作用・用法用量について理解し、必ず飲み込むまで確認している。状態に変化があれば医師・看護師の指示を仰ぎ迅速な対応が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣を大切に、その方らしい暮らしができるよう支援している。また役割を見つけ、活躍できる場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣施設への訪問や散歩、喫茶等、その日の希望に合わせ支援している。	隣接施設への移動が安全かつ容易に行うことができる環境が整備されている。お出かけコースが研究され、普段はなかなか行くことができない場所(はざま不動、日の出不動等)にも外出の機会を作っている。外出した際には、喫茶店等へ立ち寄り、ケーキや飲み物を食べながら楽しんでいただいている。利用者の思いを家族と一緒に実現できるよう調整も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はなく、買い物や喫茶代などは引き落としとなっている。本人が希望される物は、家族に依頼し購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話取り次いだり、年賀状などを出すなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ、安心できる馴染みやすい環境づくりを心がけ、また毎日の温度チェックや掃除により快適に過ごせるよう努めている。窓からは芝生や季節の花を臨むことができる。	玄関を入ると、新築のさわやかな香りがする。廊下からはガラス越しに交流スペースを見ることができるようになっている。また、居間には大きなすわり心地の良いソファが設置され、くつろげるよう配慮されている。温度や湿度も快適さが保てるような環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングそれぞれの場所や、廊下の日当たりが良い場所で日向ぼっこをして過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが、居室には使い慣れた家具・生活用品・家族の写真などを持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	訪問した部屋には多くの家具類や生活用品、衣類、写真等が持ち込まれ、また壁紙にも個性が感じられた。ある部屋には入り口近くに大きな鏡も設置されている等思い思いに生活されている様子が見て取れた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段に手すりをつけ、歩ける方は階段を利用して頂いている。また転倒の危険がある方には動きが察知できるよう鈴をつけたり、居室内の家具の配置を変えたり、居室のわからない方には入口に名札をつけるなど工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500769		
法人名	社会福祉法人フェニックス		
事業所名	グループホーム サニーテラス 2階		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼各務原町9-204		
自己評価作成日	平成26年12月29日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;lgvsoCd=2170500769-00&amp;PrEfCd=21&amp;VersiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;lgvsoCd=2170500769-00&amp;PrEfCd=21&amp;VersiOnCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成27年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「Yes, we can! なんでも言ってください。私たちも一緒にがんばります」のフェニックスグループの理念が名札に入っており、いつでも見ることができる。職員は常にその思いを持ち入居者のケアにあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃、市民運動会、地域運営推進会議への参加、隣接施設のプラザ&メゾンやGHひだまりでの行事への参加、託児所ショコラの子どもの交流、秋祭り等での地域の子どもやボランティアの方との交流などができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を利用し、地域の方々に認知症の理解・対応を利用者の生活状況を通じて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月に1回外部の方々と事業所の取組内容や具体的な改善や課題について報告し、意見を頂きサービスの向上につなげている。また地域の方と避難訓練を実施し、防災についての話し合いができている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議を通じて地域との関わりや入居者の状況、危機管理、ほとと報告、ヒヤリハット報告など細かく報告し意見を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中の施錠は基本的に行っていないが、入居者の状況によっては安全面を重視し一定時間施錠をする場合もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳について理解を深め、周知できるよう常にカンファレンスで知識を得て防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している入居者もあり、法人の勉強会などで知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明させて頂き、安心して生活して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置している。様式を変更し記入しやすいよう配慮している。また、運営推進会議へのご家族の参加により、意見・要望を出して頂く機会を設けて運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週月曜日に法人の運営会議が開催され、理事長をはじめ各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案を話し合い、運営に反映させている。また近隣部署での会議も不定期に行われ情報の共有に務めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や具体的な実績・勤務状況などを把握し、個別に話ししながら、職員各自が向上心を持ち働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や各種委員会に参加しスキルアップを図っている。新人スタッフに対しては勉強会を開催し、技術や知識の習得に勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や合同カンファレンスの実施、グループホーム協議会への加盟、研修会への参加等により質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを収集し、それをもとに、要望等に耳を傾け、早い段階で環境に馴染み、安心できる空間と、お互いの信頼関係を築くことができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報を元に、要望等に耳を傾け、また面会時なども、何でも話して頂けるよう日頃から関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	穏やかに過ごして頂けるようスタッフの認知症に関する理解や知識を深め、「その時」に合ったケアの仕方や、安心感を持って頂けるコミュニケーションを密にとり対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における家事作業など一緒に行い、生活の主体となれるよう一緒に過ごす時間を多く持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のこだわり・苦しみ・喜びを受け止め、本人の生活と共に支援していくようにしている。また面会時や電話にて報告・相談に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の法事・墓参りなどの外出、馴染みのある場所への外出を積極的に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アセスメントや関わりの中から得られた生活歴などの情報を共有し、その方に合わせた話しかけ・対応に配慮しつつ、馴染みの関係づくりや入居者間の関わり方の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や退院後、他施設へ転所となった場合も、必要に応じて相談や支援ができる関係づくりを心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに基づき生活歴を把握した上で、家族・入居者と日々のコミュニケーションを深め、希望・意向を聞き出せるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートや、家族からの聞き取りによりこれまでの暮らしを把握し、自分らしく暮らしていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる力、わかる力を暮らしの中で発見し、日々の業務の中で、カンファレンス、ほっと報告、トリガーシートなどで情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期カンファレンスにて情報を共有している。家族の希望も聞き、本人のできる事を重視し、委員会や会議での専門職(PT・OT・Ns)からのアドバイスも取り入れ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	トリガーシートを活用し、定期カンファレンスにて情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、外出支援を行っている。また母体法人の経営する施設・喫茶などが周囲に隣接している為、ランチやコーヒーなどを楽しむことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設・託児所との交流などを通じて楽しむことができている。また自治会の方々に見学をして頂き様子の把握をして頂くと共に、消防訓練の実施により安全に暮らせるよう協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の医師の往診、訪問看護もあり、相談・報告をしている。また24時間連携を取っており、いつでも連絡ができる体制にある。母体が医療機関であるため、往診時以外でも随時相談をすることができる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師、訪問看護師に報告・相談し迅速な対応ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は本人のストレスや負担を軽減する為家族と相談し、医師・看護師と連携を図り早期退院に向け取り組む体制ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や週末期における対応について、本人や家族の希望を十分に聞き取り、最善のケアができるようにしている。対応すべき時期がきた場合には、家族・医師・看護師・職員と話し合いの場を設け、支援体制を整える仕組みがある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的なカンファレンスでリスクマネジメントの事例をもとに知識や技術の習得をし、再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・災害時、また昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難場所として最短距離・最短時間で避難できる駐車場を利用。近隣施設職員も協力し訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを損ねないさりげない言葉かけや対応を心掛けている。難聴の方にはジェスチャーを交えながらコミュニケーションを図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方でも、自己決定できるよう選択支を提示したり、表情を観察するなどし希望に沿えるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの意思を尊重し、できる限り支援できるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生き生きと生活できるよう、行事などでも化粧をするなど、できるだけ本人の想いをかなえるようにしている。髪のカットは法人内の美容室を利用したり、家族がカットされる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は法人内施設で調理したものを、ご飯・汁物はホームで準備し提供している。汁物作り・盛り付けは入居者と共に行っている。月1回自由メニューの日は食べたいものを聞き、入居者と一緒に作る喜びを感じている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては管理栄養士にサポートしてもらい偏りのないようにしている。食事量は全員チェックし、水分量は必要に応じてチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方に関しては確認させていただき、介助が必要な方には支援している。また水・土曜日の週2回は義歯洗浄剤により洗浄して清潔に保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が維持できるよう、支援している。トイレの場所がわかるよう表示をしたり、必要に応じ随時話し合い対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操など体を動かす機会を多くしている。水分摂取量を増やしたり、ヨーグルトや牛乳、繊維質の多いものを摂取して頂いたり、トイレ時に腹部マッサージを行うなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定を行い、表情・体調の確認をし安全に入ってもらっている。入浴剤の使用や、菖蒲湯など季節に合わせた工夫をし入浴を楽しめるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を工夫し夜間良眠できるようにしている。眠れない時は話を聴いたり、飲み物を提供したり、一緒に過ごし穏やかに眠りつくことが出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬の目的・副作用・用法用量について理解し、必ず飲み込むまで確認している。状態に変化があれば医師・看護師の指示を仰ぎ迅速な対応が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣を大切に、その方らしい暮らしができるよう支援している。また役割を見つけ、活躍できる場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣施設への訪問や散歩、日用品の買い物、喫茶等、その日の希望に合わせ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はなく、買い物や喫茶代などは引き落としとなっている。本人が希望される物は、家族に依頼し購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話取り次いだり、年賀状などを出すなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ、安心できる馴染みやすい環境づくりを心がけ、また毎日の温度チェックや掃除により快適に過ごせるよう努めている。窓からは芝生や季節の花を臨むことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングそれぞれの場所や、廊下の日当たりが良い場所で日向ぼっこをして過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが、居室には使い慣れた家具・生活用品・家族の写真などを持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段に手すりをつけ、歩ける方は階段を利用して頂いている。また転倒の危険がある方には動きが察知できるよう鈴をつけたり、居室内の家具の配置を変えたり、居室のわからない方には入口に名札をつけるなど工夫している。		